



安井保育園 子育てだより



～てをつなごう～ 第73号 《2月・3月》

西宮市安井町 4-15 TEL 0798-34-6677

雪がちらちら降り始める寒い季節になってきましたね。安井保育園の子どもたちは寒さに負けず、園庭やホールで身体を動かし元気に過ごしています。秋に種をまいた冬野菜の大根・ほうれん草・こかぶ等も育ち、クラスごとにクッキングをしてモリモリ食べました。今年も元気に遊び、お腹いっぱい美味しい給食を食べ過ごしています。

今年度の地域子育て支援の予定は、全て終了致しました。コロナウイルス感染予防対策をしながら、育児講座や子育て教室や園庭開放も前年度より多く開催することができ、たくさんの親子の方が参加して下さいました。また、参加した保護者の皆様から「久しぶりに親子で参加する講座に来ることができて嬉しく、リフレッシュできました。」という声が多くありました。地域の親子が安心して参加し楽しめる場所として、これからも少しでも多く開催することができればいいと思っています。

2022年度4月からの育児講座・子育て教室・体験保育・園庭開放等の開催につきましては、決まり次第安井保育園のホームページに載せていきます。ぜひご参加くださいね。

本年もどうぞよろしくお願い致します。



親子で楽しい手遊びのご紹介



保育園では、毎日楽しい歌や手遊びの音が聞こえてきます。今回は冬の手遊び《雪だるまのチャチャチャ》のご紹介です。親子でぜひ楽しんでください。



雪だるまのチャチャチャ

ゆきがふってきた チャチャチャ そとは ましろ け チャチャチャ
ゆきだるまを つく たら だるまがおどります チャチャ

- ①ゆきがふってきた
- ②チャチャチャ
- ③そとはましろけ
- ④チャチャチャ
- ⑤ゆきだるまを
- ⑥だるまがおどります
- ⑦チャチャチャ



手をキラキラ振る



手拍子 3回



手をキラキラ振る



手拍子 3回



手をあげ大きな丸



かいぐりをする



手拍子 3回

- ①パパゴンだるま
- ②チャチャチャ
- ③ママゴンだるま
- ④チャチャチャ
- ⑤チビゴンだるま
- ⑥みんなでおどります
- ⑦チャチャチャ



両手をかぶ



手拍子 3回



両手を胸におく



手拍子 3回



両手をあごの下へ



かいぐりをする



手拍子 3回

『甘やかすこと』と『甘えさせること』に迷うとき



子育てをしていると、子どもの要求に対してどのように対応したらいいのか迷ってしまう時が多々あります。特に、2歳前後の世間で言われている『イヤイヤ期』という自我がめばえ始める時期になると、親の言う事に対して「イヤ！」と言ったり、してあげようとするに対して「自分で！」と言ってきかなかったりします。また、「自分で食べる！トイレに行かない！着替えたくない！」等泣いたりだだをこねたり……。親としては本当に困ってしまいますよね。

『子どもの要求にはできるだけ応えてあげたい、受けとめて共感することが大切』というのはわかっているけど『なんでも受け入れていたらわがままにならないか、我慢できない子になるんじゃないか、しつけやふさわしい行動を身につけさせたい』と願うことは、親として子どもの事を思えばこそ当然なことであり、悩みますよね。

では、子どもの要求に対してどこまで『甘えさせること』がいいのか？どんなことが『甘やかすこと』になるのでしょうか？

まず、『甘えさせること』が必要だという時は、どんな時なのでしょう？

乳幼児期の子どもは、自分の思い、興味、意欲が高まりいろんなことをやってみようとしてますが、自分の思った通りにいかなかった時、そのことを相手に伝え表現する方法が未熟で不十分です。だからこそ、泣く・すねる・だだをこねる等の、言葉以外の方法で自分の意思を伝えてくるのです。

自分のしたい事が、上手くいかなかった時の不安や悲しい気持ちを受けとめて欲しい時もあるでしょうし、わがままを言う事で気を引いたり、親の反応を試したりすることもあるでしょう。

親にとっては『困ったこと』ですが、子どもにとっては自分の思いをわかってほしいけど、どう表現したらいいのかわからない、だけど受けとめて欲しい『必要なこと』なのです。子どもの思いや感情を否定せず、受けとめることが『甘えさせること』なのではないでしょうか。

次に『甘やかすこと』になるのは、どんな時なのでしょう？

まず『甘やかすこと』とは、子どもの言葉や態度に振り回され、その思いを親が何も受け入れず、困ったので何でも許してしまう事でしょう。親が子どもの成長を見守りつつ「ここは頑張ってもらいたいところ」「この思いはどうしてもかなえられない事」と、ある程度ははっきり割り切って考えることも、必要になるのかもしれませんが。

そしてもう一つは、子どもの思いを受けとめることなく、親が自分の為にその場をなんとか収めようと何もかも許してしまう事が『甘やかすこと』になるのではないのでしょうか。

例えば、外で子どもが何かを要求する為に大声でだだをこねた時など、親は周囲の人に「自分の子どもにちゃんとしつけをすることも出来ないの？」と思われていないか気になり、子どもの要求以外のことで子どもの機嫌をとり、何とかしようします。周囲の目が気になり、子どもの要求とは別のところに動機がある状態で行動してしまうと、子どもの為ではなく自分の為の行動となってしまいます。

子どもの言葉や態度に振り回されることなく、子どもの求めているもの、必要としていることを探しながら聞き取り読み取ることが、子どもの為の行動なのです。親の都合で『甘やかす』のではなく、子どもの必要にあった受容と共感、『甘えさせる』ことが大切で、それによって子どもの気持ちが満たされ、安心感が生まれるのです。

とはいえ、親が向き合ってもどうしようもない時や、親の方が疲れ果ててしまう時もありますよね。そういう時は「わかってあげられなかったね。」と言ってぎゅっと抱きしめてあげるだけでも、子どもの心は満たされるのかもしれませんが。まだ生まれて数年しか経っていない子どもたちです。ゆっくりとした時間のある時には、親子で楽しみを共有し、子どもの思いをたっぷり聞いて、思いっきり甘えさせてあげてほしいと思います。

